

令和6年度 生徒総会（10/25） 会長の言葉

今日は、「学校のきまり」見直しについての生徒総会の日です。令和4年度より始まったこの見直しも、今年で3回目となります。「ジェンダー平等に配慮する」「時代に合っていないものを適切なものにする」、そして何より「生徒自らが考え、適切な行動を選択しながら学校生活を送れる『学校のきまり』を目指す」という、私たち滑中生が最も大切にしている【自治】の精神のもとスタートしたきまりの見直しによって、私たちの「学校のきまり」も大きく変化してきました。ですが、きまりが変わったからといって、「何でもOK」になったわけではありません。毎年きまりを変えられる機会があるからといって、好きなように変えていいわけではありません。これまでの先輩方が大切にしてくられた【自治】というのは、「自分たちで何でも決めよう。好きにしよう」ということではないと、私は強く思っています。

先日の学級討議で各クラスから出た意見を執行部で集約しました。その中には「〇〇はいいのか」「〇〇もしてもよい」などの質問や意見がありました。今のきまりを修正したい気持ちや、「なぜこの基準なのか」という疑問の気持ちもよくわかります。ですが、「なぜこの基準なのか」を考えると、「もっと自分のやりやすい方に、もっとじぶんがやりたいように」という、どんどん楽な方へ行ってしまいう危険があると思います。社会では、一人どろぼうがいるだけで、全員が鍵をかけなければいけないことになったり、自転車の危険運転をする人が一部にいるせいで、日本の全ての人のヘルメットの着用が義務化になったりしています。ルールを守れない集団には、より多くの不便な禁止事項が増えていくのが社会の常識です。では、今の滑川中学校はどうでしょうか。靴下の色や長さ、髪を縛る高さなど、多くの点で自分勝手な行動をしている人が一部いる中で、「これもいいじゃん、あれもさせてよ」と言っているのかなという思いがあります。この状況で「OKなことを増やそう」とすることは、責任のある行動と言えるのでしょうか。

そこで、今日の生徒総会は、もっと「きまりの意義」を考える時間にしたいです。「なぜこの基準なのか」ではなく、「なぜここで基準があるのか」を考えたら、「きまりが必要な理由」を考えられると私は思っています。なぜきまりはあるのかをみんなで考えることができたなら、今のルールに対する理解も深まって、「自分たちで決めたことを、自分たちで守る」という、これまでの先輩方が大事に紡いでくれた【自治】を、私たちがもっとすてきなものにできると思います。限られた時間を有意義なものにできるよう、みなさんですばらしい話合いにしていきましょう！今日はよろしくお願ひします。